



# 学校だより はんたましい

## もうすぐ楽しい冬休み

十二月二十六日から十日間の冬休みに入ります。残り一枚となつた月曆カレンダーを見るにつれ月日の過ぎ去る早さに驚きを感じます。

さて、本校では、「学びの確かめ (Webテスト)」「計算力テスト週間」等の基礎学力の定着に力を入れて取り組んできました。子どもたち自身が持つ「やる気・勇気・根気」を刺激し目覚めさせ、「やってみよう、できるかも!」という自主的な態度で切り開いていく気力と体力も継続して育てていきたいと思えます。学力向上推進取り組みの手応えを感じつつも、まだ基礎学力が、定着しない子もいるのが課題です。十二月は、今年一年を振り返り、学習面や生活面での締めくくりを行い、希望に満ちた新しい年を迎えられるように指導にあたっていきたいと思えます。本校の教育活動に対するご支援とご協力に感謝致します。

そして、一月には、家庭学習強化月間を設けながら、県到達度調査に向けて取り組んでまいります。子どもたち一人一人の力が発揮されることに期待いたします。保護者の皆様のご協力も頂ければ幸いです。お声かけご指導の程宜しくお願い致します。

保護者・地域のみなさまにおかれましては、良いお年をお迎えできますように心からお祈り致しております。どうぞ、お体ご自愛下さいませ。来年度(辰年)も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 「自信」のある子に育てたい

「どうせ…」、「自分なんか…」、「無理…」  
こんな子どもの声が、時々聞こえてきます。自分の良いところ(長所)がわからず、見つけることができずに困っているサインです。「自分をきちんと認めて、自分を大切に」という気持ちを持つと、自暴自棄になる場合もあります。(やけくそになって暴れたり、自分や相手を傷つけたり…)



「未来に向かって、夢や希望を持って生きていくために必要な物は何か?」と問われたら、その一つは、「自信」です。子どもたちの「自信」は、何にも代え難いエネルギーとなり、根底で「やる気」という動機付けに繋がる貴重な財産となります。「自信」は、自分の心の中につくられ、自分自身で感じるものです。しかし、人は弱い存在です。不安がいつもつきまといます。ついつい他人と比べて「自信」を無くしたりします。だからこそ、人から(教師、友だち、父母から)ほんの少しでも認めてもらいたいのです。そうすると安心できます。子どもなら特にそう思っていることでしょう。

子どもたちの心の隅にある「やる気」に灯をつける役割が、大人(保護者、教師、地域)にはあります。子どもたちの良さを見つけ、肯定的に承認していくことでいつか、子どもの瞳は輝き出します。子どもたちが、多くの人に認められる(言葉だけでなく)ためには、多くの人に関わっていくことが必要になってきます。時には注意され、叱られ気づき悟っていきます。そんな中で子どもは、人の心の中に残り、存在感が生まれ、気にかけて前へ進んでいきます。揉まれることで少しずつ強たくたくましくなっていきます。多くの人の中で「自信」をつけて生きていくことは、子どもでも大人でも大切なことだと思います。

見方、視点を変えて「弱点」を「強み」に変えるバランス力が育って欲しいと切に願います。愛情を持って受け入れてあげることが何よりも大切なことなのでしょう。やさしく背中を推してあげたいと思えます。



## 「なぜ、学校に行くの?」

子どもたちから保護者や教師への多くの質問の一つに「なぜ学校に行くの?」という問いがあります。日常的で当たり前のように「学校へ登校する」ということに疑問を感じる子どもの好奇心や感性に感心します。

学校に通う理由はいくつかありますが、一つは、学校は基本的な学力を身に着ける場所です。勉強を一人で進めるのは大変です。学校では教材や友達がいいます。互いに助け合い、切磋琢磨しながらコミュニケーション能力を高め合うことができます。三つめに、子供たちは自分を受け入れてくれる居場所で安心して成長することが大切です。そのためには、子どもたち自身も「楽しく過ごせる学校、安心できる学校にするにはどうすればいいか、教職員と共に考え、築き上げていくことが大切です。」

## 絵本「ず〜とず〜とだいすきだよ」

「ぼく」と犬のエルフィーは、一緒に成長していきます。でも、エルフィーのほうが早く大きくなっていくのです。「ぼく」より犬の方が早く亡くなってしまふのです)ある日の朝、「ぼく」とエルフィーにお別れがやってきます。



エルフィーは年をとって、死んでしまったのです。家族みんなは、大好きだったエルフィーを庭に埋めると、肩を抱きながら泣きました。でも、「ぼく」は、家族みんなに比べれば、いくらか楽な気持ちでした。エルフィーの死に直面したとき、「ぼく」には、一つの慰めがあったのです。その慰めとは何だったのでしょうか。

この絵本は、1年生の教科書にも出てきます。大人の私が読んで、心にしみる素敵なお話です。

言葉に出して、気持ちを伝えることの大切さを描いたお話です。大好きな家族や友達に素直な気持ちを伝えることができたなら、なんと素晴らしいことでしょう。きっと、その気持ちを伝えたくなるはずですよ。家族で読み聞かせあったり、一人静かに読むのもいいですよ。